

社会福祉法人 SKY かわさき 令和 4 年度事業報告

I 令和 4 年度を振り返って

1, 法人の動き

令和 4 年度は社会福祉法人 SKY かわさき骨格作りとして作成した中期 3 年計画(令和 4 年度～令和 6 年度)の初年度。透明性、公益性を確保し、地域ニーズを確認する。体制整備を行い経営基盤を安定させる。人材育成と世代交代をすすめることを事業方針としたが、昨年引き続き先の見通せぬコロナ禍にあって、厳しい事業運営を迫られた 1 年であった。当法人が制作に協力した映画「不安の正体～精神障害者グループホームと地域～」は首都圏を中心に上映が続き、精神障害者の地域で暮らす権利についての啓発活動に寄与した。国連障害者権利委員会の対日審査では、多くの勧告が発表されたが、令和 5 年 1 月には、国連人権委員会元特別報告者を招き、川崎の精神保健の現状と今後について意見交換する機会を得た。2 月に報道された東京、滝山病院における虐待事件は我が国における隔離収容の問題を露呈した。令和 4 年度に義務化された身体拘束適正化や虐待防止の構造的課題をひとりひとりが呻吟し、医療と福祉における事件を防いでいかなければならない。

2, 法人：重点項目の取り組み

(1) 透明性、公益性の確保と地域ニーズの確認

- ① 収支状況、苦情についてはホームページに掲載し透明性の確保に努めた。
- ② 地域ニーズの確認については、対面による地域ネットワーク会議は一部開催にとどまったが、年 3 回の評議員会で意見交換の場を設け地域ニーズの確認に努めた。また、令和 5 年 1 月に SKY かわさき地域ネットワーク会議を開催し、国連人権委員会元特別報告者を招いて市内の多くの関係者と意見交換することができた。

(2) 体制整備を行い、経営基盤を安定させる

- ① 川崎市単独加算の減額に対しては、職員体制の整備と医療連携体制の確立をすすめ、支援の充実と経営基盤の安定を図った。また、精神障害のある人の地域での多様な住まい、暮らし方を支援するために、自立生活援助事業を開始し、グループホームから単身生活へ移行した人の支援を行った。
- ② 地域活動支援センターあり方検討会を開催し、地域活動支援センターの意義と方向性を確認して、閉塞感や孤立感を和らげる様々な工夫を重ねることで日々利用の改善が見られた。また、川崎市北部地域生活支援センターの第 5 期指定管理を受託した。就労系事業所では新規申し込みの減少傾向がみられるが、引き続きその分析と対策を検討していく。

(3) 人材育成と世代交代

- ① 世代交代を図るために、全事業所に主任を配置、所長会から主任会へ各種委員会の決済にかかる権限移譲をすすめた。

3、会議報告

1) 評議員会

定時評議員会として毎年6月に開催したほか、必要な場合に開催した。令和4年度は、10月と3月に開催した。

(1) 評議員構成(定款：8名)

岡部健、坂本勉、十文字陽一、池原毅和、田草川武、武田龍太郎、谷みどり、築根俊明

(2) 評議員会の開催状況

第1回評議員会

日時：令和4年6月23日18：15～19：50

開催場所：地域活動支援センターきたのぼ

出席者：評議員8名、理事5名、監事2名、事務局1名

決議事項：令和3年度事業報告、令和3年度決算報告、令和4-5年度理事・幹事の選任

報告事項：令和4-6 3カ年計画について、北部地域生活支援センター第5期指定管理応募について

第2回評議員会

日時：令和4年10月27日18：10～20：00

開催場所：地域活動支援センターきたのぼ

出席者：評議員6名、理事6名、監事2名、事務局1名

報告事項：川崎市北部リハビリテーションセンター北部地域生活支援センター指定管理応募について、令和4年度上期報告、地域活動支援センターあり方検討会より

第3回評議員会

日時：令和5年3月23日18：10～20：00

開催場所：地域活動支援センターきたのぼ

出席者：評議員6名、理事6名、監事2名、事務局1名

報告事項：令和5年度事業計画、令和5年度予算

2) 理事会

当法人の業務執行の決定、理事の職務執行の監督を行った。6月、3月ほか必要な場合に開催した。令和4年度は計5回開催した。役員構成と開催状況は下記の通り。

(1) 役員構成(定款：理事6名、監事2名)

理事：三橋良子、青野眞美子、大友わかさ、嘉門琢美、篠原宏江、金森孝之

監事：竹下とし子、三村健

(2) 理事会の開催状況

第1回理事会

日時：令和4年6月7日 18:00～19:40

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：理事6名、監事1名、事務局1名

決議事項：令和3年度事業報告(案)について、令和3年度決算(案)について、令和4年度第1次補正予算(案)について、評議員会における監事・理事候補者の選任について、評議員会における監事選任の承認、定時評議員会の招集について、北部地域生活支援センター第5期指定管理応募について、令和4-6年3カ年計画について、労務給与規程及び育児・介護休業などに関する規定の改正(案)について、経理規程の改正(案)について

第2回理事会

日時：令和4年6月23日 19:50～20:00

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：理事5名、監事2名、事務局1名

決議事項：理事長および業務執行理事の選定について

第3回理事会

日時：令和4年9月13日(火) 16:00-16:50

開催場所：地域活動支援センター紙ひこうき

出席者：理事6名、監事2名、事務局1名

決議事項：川崎市北部リハビリテーションセンター北部地域生活支援センター指定管理応募について、福祉・介護職員等特定処遇改善加算及びベースアップ等支援加算手当について

第4回理事会

日時：令和4年10月11日(火) 18:00-19:00

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：理事6名、監事2名、事務局1名

決議事項：労務給与規程及び就業規則の改定、文書管理規程(案)について、法令遵守責任者の任命、評議員会の招集について

第5回理事会

日時：令和5年3月7日(火) 18:00-19:50

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：理事6名、監事2名、事務局1名

決議事項：役職人事(案)について、規程の改定について、新規規程について令和5年度事業計画(案)について、令和5年度予算(案)について、評議員会の招集について

3) 本部会議

事業、人事、労務、総務にかかわる事項を検討・審議した。

構成員：三橋良子、青野眞美子、嘉門琢美、大友わかさ

開催場所：本部事務所、紙ひこうき

開催回数：隔週 1 回 合計 21 回

4) 所長会

各事業所およびその他の事業について協議し、理事会議事の提案事項を起案。

「安全管理委員会」、「苦情解決委員会」、「情報管理委員会」を同時開催。

構成員：三橋良子、青野眞美子、大友わかさ、嘉門琢美、篠原宏江、

金森孝之、鶴田裕、伊藤美津子

開催場所：紙ひこうき

開催回数：毎月 1 回 合計 12 回

(1) 安全管理委員会

各事業所における事故報告・ヒヤリハット等の報告事項を共有し再発防止について協議した。所長会と同日開催。

(2) 苦情解決委員会

各事業所における苦情等の報告事項を共有し再発防止について協議した。所長会と同日開催。

(3) 情報管理委員会

法人内のデータ一元化にかかる事項を共有し、課題と今後の方針について検討した。所長会と同日開催。

(4) 特別委員会

「地活あり方検討委員会」を構成し、地域活動支援センター3 事業所の課題整理と事業運営の方向性の確認をおこなった。また、生活介護事業所 2 ヶ所に見学訪問した。

構成員：篠原宏江、大友わかさ、金森孝之、田中敦子、

鹿野絵莉子、栗山優子

開催場所：紙ひこうき

開催回数：計 6 回

5) 主任会

事業所連絡会において各事業所の活動報告を共有し、連携を図る。広報、普及啓発、研修、防災委員会からの報告事項を協議した。

「感染対策検討委員会」「身体拘束等の適正化委員会」「虐待防止委員会」を同日開催。

構成員：田中敦子、吉岡育美、栗山優子、伊藤美津子、今井歩美、

藤井恵美子、鹿野絵莉子、早坂勇気

開催回数：毎月 1 回 合計 12 回

(1) 感染対策検討委員会

今年度は、令和3年度から義務化（令和6年3月31日まで経過措置期間）となった事項のうち、①感染対策検討委員会の開催②定期的な研修（年1回以上）の実施を行った。この他、新型コロナ発生関連記録の作成および新型コロナ開所基準の見直しを行った。

構成員：8名

開催回数：計11回（第2回主任会以降同日開催）

(2) 身体拘束等の適正化委員会

令和4年度に義務化された、委員会の設置と開催、全職員を対象とした研修と周知、指針の作成とHP等への掲載を行った。また、万が一法人内で対象となる事例が発生した際に適切に対応できるよう、報告書の作成を行った。

構成員：8名

開催回数：計11回（第2回主任会以降同日開催）

(3) 虐待防止委員会

今年度は、令和4年度から義務化となった委員会及び責任者の設置、職員への研修実施に取り組んだ。この他に虐待防止指針の整備や身体拘束等の適正化委員会と共に虐待が疑われる事案ややむを得ず身体拘束等を行った場合に記録する書式作成を行った。

構成員：8名

開催回数：計11回（第2回主任会以降同日開催）

(4) 広報委員会

SKYかわさき通信を年2回（47号、48号）発行し、法人内の取り組みや各事業所の活動を伝えると共に48号からは委員会活動の報告も充実させた。また、スケジュールや予算を考慮し、通信印刷会社の選定を行った上で別会社に移行した。法人ホームページについては世代、経験が異なる3事業所の職員協力のもと、求人募集欄のリニューアルを行った。委員会の中で役割が明確化したことで職員の負担軽減を図れた。

構成員：5名

開催回数：計8回

(5) 普及啓発委員会

「中学生・高校生（思春期・精神障害好発年齢）に向けた普及啓発活動」というテーマに基づき以下の活動を行った。

①講演会の開催：認定NPO法人フリースペースたまりば理事長・西野博之氏をお招きし、映画『ゆめパのじかん』上映会とトークセッションを行った。広報先を児童対象としている機関にも広げた結果、参加者70名（定員80名）のうち、約半数は法人外の一般、学生・学校関係者、福祉医療従事者と成果を得られた。

②「精神障害」を知らない人たちへ伝える継続的活動：昨年度の地域への普及啓発を単年で終わらせないよう、長期継続的にアプローチを続けていくことを目標とした。今年度は①講演会の広報を通じて一端は担えた。

構成員：5名

開催回数：計11回

講演会：令和5年2月26日『「居場所のちから」に触れる』

(6) 研修委員会

「日頃の支援を振り返り、今後の支援につながる研修会の実施と職員交流・自らの活動をまとめて発表できる業務報告会の実施」をテーマに今年度は取り組んだ。

11月は、法人内職員を対象に「家族や地域の埋もれた困りごとを理解し、開かれた地域作りについて探る」をテーマに、一般社団法人 Omoshiro の勝呂ちひろ氏を講師に迎え、Omoshiro が実践されている親子まるっと伴走支援のお話を通して、ソーシャルワーカーとして何ができるのか考える機会とした。若手職員を中心に勝呂氏のバイタリティに刺激を受けたとの声が聞かれた。

2月の業務報告会では、「事業や活動、支援に対するここが熱い」をテーマに4事業所が日頃の業務報告を行った。様々な立場の方に来賓いただいたうえに、利用者の発表も多く、暖かい雰囲気の中、それぞれの事業所の熱意が伝わる有意義な場となった。

構成員：6名

開催回数：計9回

(7) 防災委員会

防災マニュアル改訂版の4月発行。11月には職員の参集体制の見直しを行った。防災訓練では感染症対策の観点から令和4年度も入居者との顔合わせは新入居者のみとなったが、備蓄品の確認を重点的に全ユニットで行なうことができた。

B C P（自然災害時の業務継続計画）については研修を中心に基礎知識の習得と個別コンサルを活用し作成時に必要なことの確認など令和5年度の完成に向けて準備の1年となった。

構成員：5名

開催回数：計9回

4、事業別報告

1) 障害福祉サービス事業

(1) 共同生活援助事業所 ホーム SKY

| | |
|-------|---|
| 場所 | あんじょうやりや、きらくや、すみれ、すみれⅡ（多摩区登戸） みかんハウス、ふらっと（多摩区栗谷）カンタービレ（麻生区百合丘） |
| 対象者 | 定員 39 名 |
| 新規利用者 | 10 名（退院 3 名、他施設 0 名、家族 4 名、一人暮らし 3 名） |
| 退所者 | 9 名（自立 5 名、他施設 1 名、実家 1 名、入院 1 名、死去 1 名） |
| 利用実績 | 実数 47 名/年（1 年間の利用人数） |
| 開所日数 | 365 日 |
| 職員数 | 常勤専任 2 名、常勤兼務 6 名、非常勤 17 名 |

事業報告

・入退居支援 令和 4 年度も入退居の多い 1 年となった。希望する方には、自立生活援助事業所アイビーの支援に繋がった。一方で新たに入居された方も多く、その半数は 3 年での自立を目指して入居で、ご自身の将来についての希望を見据えながら生活を始めている。

・医療連携体制 コロナや高齢者、持病のある方への対応を踏まえ、週 1 回看護師による健康チェックの確認や相談ができるように医療連携体制を組んだ。週 1 回看護師と話せることが安心に繋がる方もみられた。

・レクリエーションの実施 コロナ対応のため、中止してきたバスレクを久しぶりに再会でき、参加者の方からは、久しぶりのレクリエーションが楽しかったとの感想を頂いている。各ユニットでも感染対策に配慮しながらの外出や行事会食を少しずつ進めることができた。

・事故報告 令和 4 年度は例年以上の事故報告があった。特に入退居者の多い中、入居間もない方の事故報告が目立ったため今後の課題として検討したい。

<活動内容>

- ・支援計画作成 面談、関係機関やご家族との調整、ケア会議
- ・日常生活支援 原則週 1 回の定期訪問支援（家事支援、部屋の管理等） 日常生活での相談支援、同行、通所支援・服薬管理支援。週 5 回の夕食提供、レクリエーションや交流企画、健康チェックの確認。看護師による体調確認
- ・自立生活移行支援 卒業に向けてのカンファレンス、関係機関との調整 部屋探し 卒業グループワーク、引っ越しや手続きの支援他
- ・入居支援（入居時面談、カンファレンス、関係機関との連携、手続き調整、引っ越し支援、必要物品購入等新生活の相談等
- ・健康や衛生管理に向けた支援 看護師による週 1 回の健康チェック表の確認

<地域との連携>

- ・多摩区精神保健福祉連絡会議 ・障施協 グループホーム部会の出席・各ユニット町内会への参加

(2) 自立生活援助事業所 アイビー

| | |
|-------|-------------------------------|
| 場所 | アイビー本部（共同生活援助事業所すみれ内 多摩区登戸） |
| 対象者 | 利用者 6名（男性 3名、女性 3名） |
| 新規利用者 | 4名 |
| 退所者 | 0名 |
| 利用実績 | 実数 149名/年（1年間の延べ利用人数） |
| 開所日数 | 10日（別途夕食サービス週2日×2名、支援計画面談等あり） |
| 職員数 | 常勤兼務3名、非常勤兼務1名 |

事業報告

新規事業として令和4年1月より実施。ホームからの自立生活へ移行した方のアフターケアを目的としている。自立生活への不安を感じる方も、アイビーの訪問や同行支援、電話での連絡相談、夕食サービスを利用し、ゆっくり自立への自信を得て、地域生活を送っていただけるよう、利用者、関係者と話し合いながら取り組んでいる。令和3年度より利用されている2名の方はサービス調整会議を経て、もう1年の継続となった。1年間の実績を振り返り新たな課題を当事者、関係者で確認した。

<活動内容>

- ・原則月2回、ご本人の自宅への訪問と、利用者の希望に応じて随時の訪問
- ・買い物、受診、手続き等の同行支援
- ・24時間連絡を受けることが可能な体制作り（夜間、休日は緊急携帯対応）
- ・法人独自のサービスとして夕食サービス（週1～2回）の実施。
- ・3か月ごとの支援計画、モニタリング

<地域との連携>

- ・各利用者の相談支援事業所、訪問看護事業所、関係機関との連携
- ・各不動産会社との連携

(3) 就労継続支援B型事業所 はっぴわーく

| | |
|-------|--|
| 場所 | 多摩区登戸 2959 |
| 対象者 | 利用者 34名（男性 27名、女性 7名） |
| 新規利用者 | 5名 |
| 退所者 | 5名（在宅2名、他資源への移行2名、就労1名） |
| 利用実績 | 実数 3,767名/年 平均利用者数 15.7名/日 |
| 開所日数 | 260日（内、平日239日、休日21日） |
| 職員数 | 常勤専任4名、非常勤2名 |
| その他 | 工賃時給140円～600円（他、上期下期手当あり） 工賃支払総額 3,694,597円/年 |

事業報告

今年度は、登戸部門で中心となるジャム製造と軽作業において取引先の新規開拓に力を入れた。ジャム部門では新規5か所の委託販売を行い、軽作業でも新規相談の内3社と取引を継続、収入の増加につながっている。また、JR横浜支社との「梨ジャムキャンペーン」では昨年比25%アップの売り上げとなったが、キャンペーン中に賞味期限の記載間違いがあり、お客様や取引先様にご迷惑をおかけしてしまったため、今後も再発防止策を徹底して行っていきたい。

北リハ清掃部門では、最低賃金の引き上げを根拠に清掃委託料の値上げを交渉させて頂き、利用者の方の清掃の丁寧さなども認められ、委託料を値上げして頂くことが出来、令和5年度からの工賃時給アップに繋げることが出来た。

また、本年度はレクレーションや体験発表、普及啓発事業へのボランティア参加等も活発に行われ、作業以外の場面でも利用者が力を発揮される場面が多くみられ、また、共に楽しむ事の大切さも感じさせてもらえる一年となった。

<活動内容>

- ・登戸作業部門：ジャム製造・販売、軽作業、マンション清掃、ポスティング
- ・北リハ清掃部門：北部リハビリテーションセンター清掃
- ・その他：ミーティング、レクレーション、日帰り旅行等

<地域との連携および販売協力等>

- ・イベント販売：パサージュ・たま／民家園通り夏まつり／多摩川ピクニックラリー／多摩ふれあい祭り／登戸デポ-出張販売／食の祭典 in 生田緑地／プラザマルシェ（市民プラザ）／SORA市／花と緑の市民フェア／紙ひこうき夏祭り／多摩区エコフェスタ／秋の合同販売会／ハロウィンだよ登栄会／北リハフェスタ／手作りマーケット／ねんりんピック／さくらまつり
- ・委託注文販売（敬称略・団体のみ）：café ツムギ／2416MARKET／灰吹屋／美遊 JAPAN／HOTEL-ARU-KSP／スターの昼寝／パントレプレナー／玉川地区民協／葉月社労士事務所／紀伊国屋アトレ武蔵小杉店／北部リハビリテーションセンター／はぐるまの会／JR東日本一リトルマーメイド／カリタス女子中学高等学校／ソーシャルデザインセンター／クリスマスマーケット

(4) 就労継続支援B型事業所 があでん・ららら

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 場所 | 麻生区下麻生 3-32-5 |
| 対象者 | 利用者 37名（男性 16名、女性 21名） |
| 新規利用者 | 6名 |
| 退所者 | 6名（他機関利用1名、その他5名） |
| 利用実績 | 実数 3,762名/年 平均利用者数 15.7名/日 |
| 開所日数 | 246日（内、平日239日 休日7日） |
| 職員数 | 常勤専任 3名、常勤兼務 0名、非常勤 8名 |
| その他 | 工賃時給：120～300円 工賃支払総額 2,230,895円/年 |

事業報告

今年度は、東柿生小学校の授業やカリタス女子高等学校作業体験、チャレンジボランティアなどを通して、コロナ禍で滞っていた利用者と地域の交流機会を持つことができ、よりらららの活動を広く知ってもらうことができた。また、新規利用者が順調に定着することができ、既存の利用者も自身の目標に沿って順調に利用日数を増やしていくことができた1年になった。

<活動内容>

・園芸、喫茶、焼菓子、ハーブティー、クラフト、販売、ミーティング、学習会（ハーブ学習会、健康学習会、販売練習、活動報告、防災訓練など）

3年ぶりに販売機会の充実した1年となり、定期注文や季節に合わせたご依頼など1年通して安定した工賃収入や作業機会を確保することができた。また、作業参加だけでなく、活動報告への参加や生産量の共有を通して利用者が主体的に事業へ取り組む足掛かりを作れた1年となった。

<地域との連携>

A S A O健康井戸端会議、麻生区社社会福祉協議会、麻生区社会福祉協議会福祉教育懇談会、麻生区自主製品販売連絡協議会、おやじ考、川崎市都市農業振興センター、カリタス女子中学高等学校、里山フォーラム、下麻生自治会、はぐるまの会、東柿生小学校、まぶね教会、レモングラスなど（50音順）

<販売協力>（敬称、法人格略・団体のみ）

麻生区危機管理室、麻生区地域ケア推進室、麻生区社会福祉協議会、あさおのお店、ANAシステムズ、イーストファーム、伊藤タクシー、柿の実幼稚園、金井原苑、川崎市障害者社会参加就労支援課、川崎田園都市病院、カリタス女子中学高等学校、CANDYACTION、渋谷教会、社会空間研究所、セレサモス麻生・宮前、武田病院、渋谷教会、熱源、はな*いとし*こいし、花まる塾、ぶらりば・りあん、ふるさと納税返礼品、美遊 J A P A N、百合丘いこいの家、百合丘教会など（50音順）

2) 相談支援事業

(1) 地域相談支援センター ひまわり

| | |
|-------|---------------------------------|
| 場所 | 麻生区百合丘 1-20-7 白井ビル 2階 |
| 対象者 | 利用者 124名 (男性 50名、女性 74名) |
| 新規利用者 | 25名 |
| 退所者 | 8名 (他区のGHへ入居2名、他区・県への転居5名、死去1名) |
| 利用実績 | 実数 1930件/年 平均利用者数 8名/日 |
| 開所日数 | 245日 |
| 職員数 | 常勤専任 3名 |
| その他 | 一般相談 124名 計画作成 17名 |

事業報告

令和4年度は、地区担当制に沿って区から多様な課題を抱える家族の支援、事業所からは日常的に課題のある方の一般相談が増え、幅広い分野の制度や社会資源等に関する知識、関係機関との協働が重要だと感じる1年となった。また、親亡きあとの住まいの確保等で、GHやアパートを設定する機会も多く、集中的な支援の必要な方がこれまで以上に多かった。

<活動内容>

- ・障害種別や年齢等を問わない総合相談の実施、福祉サービスの利用支援
- ・日頃の個別支援や、会議等を通じた地域の関係者や関係機関とのネットワークの構築
- ・災害時個別支援計画の作成および、日ごろからの防災への働きかけ
- ・3年ぶりに、地域ネットワーク会議（さくらスタジオと共催）を開催し、訪問看護やヘルパー事業所と、訪問系事業所の役割について話し合った
- ・区地域自立支援協議会、サービス調整会議、相談支援調整会議、GSV、相談支援事業所連絡会への参加
- ・権利擁護ために必要な支援として、成年後見制度利用支援、虐待コアメンバー会議への参加
- ・新型コロナウイルス感染症対策に関しても、対策を講じながら事業を継続した

<地域との連携>

- ・ASAO健康井戸端会議への参加
- ・担当地区の地域情報交換会に参加し、民生委員、自治会長との交流機会を持った（10月、3月）

(2) 相談支援事業所 かみひこうき

| | |
|-------|--------------------|
| 場所 | 多摩区登戸 2341-1 |
| 対象者 | 24名 |
| 新規利用者 | 8名 |
| 退所者 | 0名 |
| 利用実績 | 280件（活動報告参照） |
| 開所日数 | 240日 |
| 職員数 | 常勤兼務3名（紙ひこうき兼務） |
| その他 | 計画ならびにモニタリング作成 49件 |

事業報告

常勤職員3名が地域活動支援センター紙ひこうきと兼務しながら、グループホームや自立生活援助事業所、就労継続B型事業所、居宅介護等を利用している方たちの計画相談支援をおこなった。

<活動報告>

電話相談 49件、来所相談 36件、訪問 74件、同行支援 3件
個別支援会議 4件、関係機関連携 112件、手紙等 2件

<地域との連携>

- ・ 北部基幹相談支援センターとの情報交換会
- ・ 相談支援事業所連絡会
- ・ 川崎市地域自立支援協議会全体会議出席

3) 地域生活支援事業

(1) 地域活動支援センター きたのぼ

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 場所 | 多摩区登戸 2341-1 |
| 対象者 | 利用者 28 名（男性 3 名、女性 25 名） |
| 新規利用者 | 6 名 |
| 退所者 | 5 名（在宅 2 名、就労 1 名、他資源移行 1 名、入院中 1 名） |
| 利用実績 | 実数 1,444 名/年 平均利用者数 6.0 名/日 |
| 開所日数 | 242 日 |
| 職員数 | 常勤専任 1 名、常勤兼務 1 名、専門職非常勤 1 名、非常勤 2 名 |
| その他 | 工賃時給：100 円、工賃支払総額 467,940 円/年（手当あり） |

事業報告

令和 4 年度の重点目標は 3 点。①新規利用者の獲得においては、医療機関や相談支援事業所へ案内等を送付した。利用者の定着支援としては昼食サービスや余暇活動、紙ひこうきの合同プログラムを取り入れるなど工夫した。②「きたのぼのお店」開店に向けては、地域への認知度をあげることを目的に、製品紹介チラシを更新したり利用者と共に定期的に SNS を更新したり、最新の情報発信に努めた。③利用者同士の交流の機会を増やし、地域とつながる取り組みにおいては神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターのワークショップ支援事業を活用し、音楽ワークショップを開催した。利用者の自己発信が増え表現力が豊かになり、利用者同士の交流が活発となっている。また、地域イベントに積極的に参加したことで、きたのぼを知ってもらえる貴重な機会となった。その他、昨年度からの継続課題であった在庫過多については、季節に合わせたお買得セールを実施。値下げをしたり製品をリメイクしたり工夫した。

全体としては、きたのぼが地域に開かれた活動を展開していくことを目的に、販売等に参加したり事業所を見学したり、職員と利用者と一緒に様々な立場の方とのつながり作りに努めた 1 年となった。

<活動内容>

自主製品作り、軽作業、法人内事務委託、ストレッチ、ヨガ、風船バレー、ティータイム、紙ひこうき合同夏祭り、ウォーキング、フラダンス、大掃除、新年会、外出レク、桜美林大学体験発表、事業所見学会、SKY 業務報告会等
<地域との連携および販売協力等>

パサージュ・たま、多摩ふれあいまつり、民家園通り夏まつり、KAWASAKI 産 SUN フェスティバル、川崎市民プラザプラザマルシェ、SKY 合同販売会、ハロウィンだよ登栄会、北リハフェスタ、ふれあいバザール、手作りマーケット、食の祭典、SORA 市、写真のマミ、マミーポポ、多摩区 SDC、があでん・ららら、なごみ保育園、登戸台和町会桜まつり、のぼりとミーティング、多摩区連携ネットワーク会議

(2) 地域活動支援センター さくらスタジオ

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 場所 | 麻生区片平 2-29-1-B1 |
| 対象者 | 利用者 37 名（男性 10 名、女性 27 名） |
| 新規利用者 | 2 名 |
| 退所者 | 5 名（就労 1 名、他資源への移行 1 名、死去 1 名、他 2 名） |
| 利用実績 | 実数 1,002 名/年 平均利用者数 4.2 名/日 |
| 開所日数 | 238 日 |
| 職員数 | 常勤専任 2 名、常勤兼務 1 名、非常勤 0 名 |

事業報告

令和 4 年度は 4 つの重点目標を基に取り組んだ。

一つ目は、社会参加の第一歩としての社会資源の役割を担う活動の継続として情報発信に力を入れた。さくらスタジオのような場を必要としながらも情報が届いていない当事者やその支援者の目に留まるよう、日々の活動や利用者の活躍する姿を、インスタグラムを活用して発信した。また、社会福祉協議会の在宅福祉サービス委員会において事業所の活動を PR した。

二つ目は利用者の自己実現の場を得るための工夫で、ここでもインスタグラムを大いに活用し利用者の作品や活動を掲載した。COLORS かわさき展では、利用者の作品が落札され、喜びや自信を得る貴重な機会となった。コロナ禍で自粛していた咲 LIVE を開催し、外部のお客様を事業所に招き朗読発表や作品展示を行い、利用者が安心して自己表現できる場を設けた。また、芸術活動やその発信の方法について職員が学ぶため、川崎市文化財団や神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターの研修等に積極的に参加した。

三つめは、講習会等を開いて利用者の目標の設定や実現の支援をすることだった。就労継続支援 B 型事業所の通所を実現した利用者の体験発表を開催し、目標に向かって取り組む方法などを、身近な存在である仲間の言葉で届けてもらう場を設けた。発表者にとっても自身の取り組みを整理し、次の目標を考える機会となった。

最後はコロナ禍の閉塞感や孤立感を和らげるため、レクやプログラムの実施を積極的に行った。「カラオケ」や「声を出そう」等のプログラム、COLORS かわさき展の鑑賞や梨狩りやいちご狩り等の外出レクに取り組んだ。

<活動内容>

昼食の日、ゲーム大会、絵画、映画鑑賞、YouTube 鑑賞会、ストレッチ、脳トレ、季節のパーティー、大掃除、咲 CLASS、咲 LIVE、防災訓練

<地域との連携>

- ・麻生区社会福祉協議会在宅福祉サービス委員会・自然堂との交流
- ・地域ネットワーク会議・パラアートに関わる団体との交流

(3) 地域活動支援センター 紙ひこうき

| | |
|-------|--|
| 場所 | 多摩区登戸 2341-1 |
| 対象者 | 利用者 64 名（男性 36 名、女性 28 名） |
| 新規利用者 | 11 名 |
| 退所者 | 11 名（転居 2 名、他資源移行 1 名、本人意向 7 名、死去 1 名） |
| 利用実績 | 実数 2,500 名/年 平均利用者数 11.0 名/日 |
| 開所日数 | 240 日 |
| 職員数 | 常勤兼務 3 名、非常勤 1 名 |
| その他 | 実習生受け入れ 1 名 |

事業報告

年度末登録者数は 64 名、平均実利用人数は 11 名となり、昨年度と比べると 1 名増加した。コロナ禍ではあるが 11 名の方が新規登録し、プログラム活動やイベントへの参加や相談などを通して定着しつつある。また、きたのぼと季節のイベントを合同開催し、メンバー同士の交流の機会とした。

地域ネットワーク会議は実施できなかったが、3 月に紙ひこうきの活動報告会をおこなった。メンバーと職員が共に 1 年の活動を振り返りながら、令和 5 年度のイベントや勉強会、普及啓発活動などの企画について意見交換をした。特に、事業所内での活動だけでなく地域に向けた障害理解の取り組みをどう展開していくか、ということテーマに日々アイデアを出し合いながら、多摩区のイベント参加に向けて準備をすすめている。

相談支援においては、常勤職員 3 名が個別支援計画を作成した。現在、登録者のうち単身生活者が 57%を占め、平均年齢は 52 才である。定期面談のほか、日常生活相談や健康に関する相談など、必要に応じて地域の関係機関と協力して地域生活の支援をおこなっていく。

普及啓発に係る活動としては、泰山木の会（家族会）との交流や精神保健福祉士の実習生受け入れほか、区役所での家族教室へ職員とメンバー 2 名を派遣し、病気の体験や現在の生活などを語る活動に協力した。また、通年でピア活動地域交流会の実行委員会へ職員とメンバーを派遣し、企画運営ならびに座談会に主体的に参加した。

<活動内容>

ミーティング、目安箱、ストレッチ体操、健康 5 分体操、ヨガ、手芸、弁当、中・大掃除、音楽紹介の会、音楽発表会、書初め大会、新年会、きたのぼ合同夏祭り、外出レク、SKY 業務報告会、紙ひこうき活動報告会等

<地域との連携>

ミュージッククリップ上映会、泰山木の会との交流、池原弁護士との勉強会、多摩区役所家族教室、SKY 業務報告会、実習生受け入れ、ピア活動地域交流会、川崎市障害福祉施設事業協会、のぼりとミーティング、多摩区連携ネットワーク会議、多摩区精神保健福祉連絡会議

(4) 北部地域生活支援センター ゆりあす

| | |
|-------|--|
| 場所 | 麻生区百合丘 2-8-2 北部リハビリテーションセンター2階 |
| 対象者 | 利用者 220名（男性 117名、女性 103名） |
| 新規利用者 | 22名 |
| 退所者 | 7名（他資源移行 2名、本人意向 1名、死去 3名、他 1名） |
| 利用実績 | 実数 4,108名/年 平均利用者数 14.0名/日 個別相談件数 2,176件 |
| 開所日数 | 293日 |
| 職員数 | 常勤専任 6名、非常勤 5名 |
| その他 | 計画作成 33名 地域定着支援 1名 実習生受入 22名・143日間 |

事業報告

ゆりあすは開設から 15 年を迎え、これまで 750 名を超える方が登録・利用してきた。一方で、依然として医療や障害福祉サービスが届いておらず、精神障害を隠したまま孤立する当事者や家族も数多くいる。今年度は、地域生活支援センターの利用が途絶えがちな方へのピアスタッフの訪問活動の実施（延べ 28 件）、居宅介護事業所へのピアガイドヘルパーの派遣（延べ 83 件）に加え、家族会への定期的な参加や、行政機関における受診・受療援助に関する研修の開催等、当事者や家族の孤立を防ぎ、社会参加へと繋がるための方策について検討をすすめてきた。ピア活動地域交流会では映画「不安の正体」の上映と座談会を実施し、地域に残る差別や偏見について 71 名の当事者や関係機関の方と意見交換した。

<活動内容>

- ・全体ミーティング、ピアミーティング、スマイル(当事者活動)、サイコドラマ、WRAP、当事者研究、体験談発表、防災プログラム、就労ミーティング、ランチほか各種プログラム・クラブ活動の実施
- ・ピア活動地域交流会、ふれあう訪問ツアー、退院応援ミーティング、ピア派遣事業ほかピアサポーター養成・支援事業の実施

<地域との連携>

川崎市障害支援区分認定審査会委員、川崎市障害者施設事業協会施設長会、川崎市障害者施設事業協会精神障害者支援施設分科会、ピア活動地域交流会実行委員会、川崎市地域活動支援センターA型情報交換会、地域活動支援センターA型の機能に関する懇談会委員、川崎市北部相談支援事業所連絡会、川崎市精神障害者地域移行・地域定着支援協議会、ピアサポート連絡会、麻生区社会福祉協議会ボランティア活動振興センター運営委員会、北部リハビリテーションセンター運営調整会議、北部リハビリテーションセンター防犯・防災対策委員会、北リハフェスタ実行委員会

5, 苦情報告

| 苦情件数合計 | | | | | | | | | | |
|--------|----|---|-----------|--------------|-------------|-----|----|------------|-----|----|
| 申出人 | | | 内容 | | | | 結果 | | | 30 |
| 本人 | 家族 | 他 | 職員の 接遇 | サービスの 質・量 | 説明・情 報提供 | その他 | 解決 | 検討 (継続) | 未解決 | |
| 21 | 2 | 7 | 13 | 5 | 6 | 6 | 27 | 1 | 2 | |

苦情の多くは本人からの申し出によるものとなる。「他」は主に関係機関からの連絡であり、ご本人との二者間では解決に至らないケースについては第三者委員や行政と連携を取りながら継続して話し合いを重ねた。内容の内訳としては「職員の接遇」に関するものが最も多く、次いで「説明・情報提供」「サービスの質・量」に対する要望が多かった。結果として27件は解決に至ったが、2件は話し合いの場を設けること自体ができず未解決となった。

6, 事故報告

| 事故件数合計 | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|----|----|----|----|----|------|----|-----|------|--------|--------|----|-----|----|
| 対象 | | 内容 | | | | | | | 対応 | | | | | 13 |
| 利用者 | 職員 | 死亡 | 骨折 | 転倒 | 疾患 | 交通事故 | 火災 | その他 | 警察保護 | 救急搬送依頼 | (うち搬送) | 受診 | その他 | |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 2 | 1 | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 | 4 | 3 | 5 | (2) | 2 | 3 | |

令和4年度は例年以上の事故報告があった。特にグループホームの入退居の多い中、入居間もない方の事故報告が目立ったため今後の課題として検討したい。